

九条の会

2005・4・26

第35号

101-0065 東京都千代田区
西神田 2-5-7 神田中央ビル 303

TEL 03-3221-5075

FAX 03-3221-5076

改憲を阻止する、より大きな広がり

「九条の会」が記者会見

昨年6月10日に発足した「九条の会」、は4月22日、発足1周年を前に、記者会見をおこないました。会見には7人が参加し、これまでの活動についてのそれぞれの感想を述べるとともに、今後の活動についての抱負を語りました。7人の発言の要点は次のとおり。

【加藤周一】(代表発言) 昨年の発足のとき、憲法を守る地域的、職業的なさまざまなグループがたくさんあるが、横の連絡がないので、横の連絡をつくり全体の運動がわかるようにするため「九条の会」をつくと述べた。この間、全国各地で講演会を開いてきたが、どこの会場も想像を超える盛況で、目的は達せられつつある。

今後のこととしては、7月に東京で大きな集会を開く。また、今後も地方で講演会を開いていくが、「九条の会」が方針をたててその実行を求めるのではなく、自発的な運動がどんどんおこってくることを期待し、その横の連絡をつけ、情報を流す。活動は拡大するが従来の基本方針に変わりはない。

なお、憲法にかかわる最大の関心事は安全保障の問題だが、歴史的にみれば、軍事力を使って平和が保障された例も、軍事的介入で目的が達成された例もない。9条の方がはるかに現実的、経済的、合理的だ。

【澤地久枝】 この1年、「九条の会」の講演会で各地に行き、九条を守るためにまとまっていこうという人びとの熱気を肌身に感じた。どこも盛会で、95歳の女性や高校生から、「何かやりたい」「何か意思表示をしたい」といわれた。9条を守りたいという思いが地下水のようにあることを実感し勇気づけられた。

【三木睦子】 グループの中で最年長だが皆さんといっしょにがんばりたい。いまの日本の総理大臣は戦争の悲惨さ、苦しさを知らないひとながっている。私は幼い子どもを育てながら、あの戦争をくぐりぬけてきた。どんな理屈があっても戦争をしてはいけないと説いていかなければならないと思っている。

【大江健三郎】 昨年の発足記者会見で、人間が一人ひとり声を発していると、それが自然に集まってくることをあらわす萃点という言葉を紹介し、「九条の会」はその萃

点になりたいと述べたが、その効果が出てきている。憲法についての議論がはじまってみると、憲法を日本人は守っていることと、憲法を日本人は守っていることが明らかになってきた。

【小田実】 この1年、全国のあちこちに話をしにあって、改憲に反対する風が吹き始めていると実感している。集会はどこでも数千人が集まり、若い人の参加も増えてきた。そういう現象に刺激をうけて、地域の「九条の会」が全国各地にでき、そこに自民党の幹部らも参加している。そういう動きがさらに増えたら改憲はだめになる。

【奥平康弘】 「九条の会」の二つの効果を述べたい。一つは、客観的效果で、各地で例外なくびっくりするような多くの人びとが集まっている。「鉾脈」にぶつかった新鮮な驚きがある。もう一つは、自分の研究者としての社会的責任を痛感したこと。特に9条2項をいじってはだめだという研究を深めていく責任を感じていること。

【鶴見俊輔】 自分の話している言葉に責任をもつという意味で、自分の言葉が浮き上がらないように気にしている。「墓(ひきがえる)誰かものいへ声かぎり」という俳人・加藤楸邨の句をもとにした「墓九条の会よくぞ友」という句が小学校時代の友人から送られてきた。「九条の会」に加わってよかったと思う。

7月に東京で1万人の集会

記者会見に先立って、「九条の会」は昨年7月1日頃の全体の会議を開き、この間の活動について感想を述べ合うとともに、今後の活動について意見交換しました。

このなかでは、「九条の会」の活動が大きく広がりつつあることを一致して確認し、

この流れをさらに大きくするために努力することが話し合われました。

その新たなスタートとして、7月30日に東京・有明コロシアムで1万人規模の講演会を開くこととし、この集会の持ち方については、各界で活躍する人びとの新たな協力もよびかけることとしました。また、マスコミが「九条の会」についての報道を意図的におこなわないなかで、この講演会の開催をより多くの人びとに知ってもらうために、各地の「九条の会」の協力を得て全国紙の一面をとる意見広告を掲載することも確認しました。

このほか、これまで行っていない地方での講演会の開催にも引き続き取り組むこととし、その場合には、地元の世論を動かすような開催方法を工夫することなどが話し合われました。

各界・各分野の「会」と懇談

「九条の会」の会議の前半は、この間結成された「九条の会」アピールに賛同する各界・各分野の「会」との懇談にあてられました。懇談では、まず各界・各分野の「会」からそれぞれの活動や組織の状況について報告がおこなわれ、今後の運動の方向について懇談しました。この懇談のなかでは、各界・各分野の会がそれぞれの特色や専門性を生かすことなどが強調されました。

この懇談会には、『九条の会』アピールを支持する医師・医学者の会、「九条の会・詩人の輪」、「宗教者九条の和」、「九条の会」のアピールを広げる科学者・研究者の会、「マスコミ九条の会」、「俳人『九条の会』」、「スポーツ九条の会」、「『九条の会』アピールに賛同する女性の会」、「映画人九条の会」が参加しました。